

企 画 室
情 報 シ ス テ ム 部

企画室における経営計画の策定をより効果的に支援するための機械化を行い、経営環境変化へのすみやかな対応と多角的な分析に基づく経営計画の作成を支援するシステムを作る。

この目的を達成するため、インテリジェント端末を導入し、その上に意思決定支援システムと呼ばれるソフトウェアを導入してデータベースと経営計画シミュレーションを開発する。

(注 MIRAI…More Information, Research And Intelligence)

1 機械化の目的

オイルショック以降、燃料事情、需要動向、国際情勢等の経営環境の変化が激しくなり、きめ細かにより効果的な経営計画の作成が求められている。そこで経営を取り巻く諸条件の変化へのすみやかな対応や不確定な将来への対応のためには、情報のより多くの蓄積とより効率的な管理を行うとともに、多面的シミュレーション計算を実施することが必要である。

このために、企画室の広範囲な機械化を推進し総合的なシステムを開発していくものとし、将来的には、企画室におけるほとんどの業務に機械を利用して人間の能力を考える仕事に極力振り向け企画室の役割を一層高めようとするものである。

2 経営計画支援システムの背景

経営計画を作成するにあたっては、従来からも大型コンピュータでの機械化がなされてきた。

しかし、大型機は、定型的で大規模な計算処理に適しているが、非定型処理や対話型処理には不適で、かつ専門的な言語を使用するため、情勢変化にも迅速に対応できにくい面があった。

一方、パソコンは、使いやすさや小回りがきく反面、個々のシステムの連携およびデータの共通的な利用方法等において限界があり、効率的とはいえない難かった。

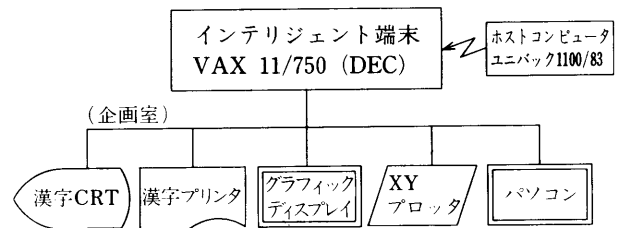
そこで今回、大量処理にも適したハードウェアと非定型業務にも柔軟に対応でき、かつ専門的な知識なしでもプログラムを容易に作成できるソフトウェアを採用することとした。すなわち、ハード面では、インテリジェント端末（スーパーミニコン）等を導入してレベルアップを図り、ソフト面では、数年前から意思決定支援システム開発研

究会の会員として協力してきた東洋情報システムの『ACTIVE-DSS』を導入し、その上にデータベースを構築し、需要想定から収支計画に至るまでの総合的な経営計画シミュレーションを開発するものである。

3 導入機器とソフトウェア

(1) 導入機器の概要

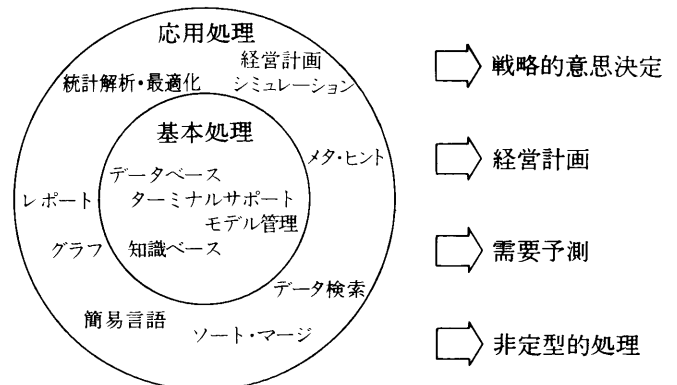
導入コンピュータと関連機器を第1図に示す。



第1図 導入コンピュータと関連機器

(2) ソフトウェア

基本ソフトウェアの適用分野を第2図に示す。



第2図 ACTIVE-DSSの機能

4 システム『MIRAI』の具体的内容

(1) 汎用情報検索システムのためのデータベース
 経理データ、燃料データ、設備データ等の実績および計画データを蓄積し、全体の枠組および索引表を作って情報を容易に検索、加工、作図できるシステムを構築する。

(2) 経営計画シミュレーション

経済・需要の分析や最適な電源計画、燃料調達のあるり方など各分野の計画作成のためのモデルを積み上げるとともに、それらを連結および統合して収支に結びつける経営計画シミュレーションを構築し、迅速かつ多面的な検討ができるようにする。(第3図)

(3) 役員向け情報提供システム

データベース等の構築がある程度軌道にのった段階で、他部門とも協調をとってデータベースを中心に役員へのニーズに合う情報を端末から直接提供するシステムをつくる。

(4) その他個別開発業務

要員管理システム等

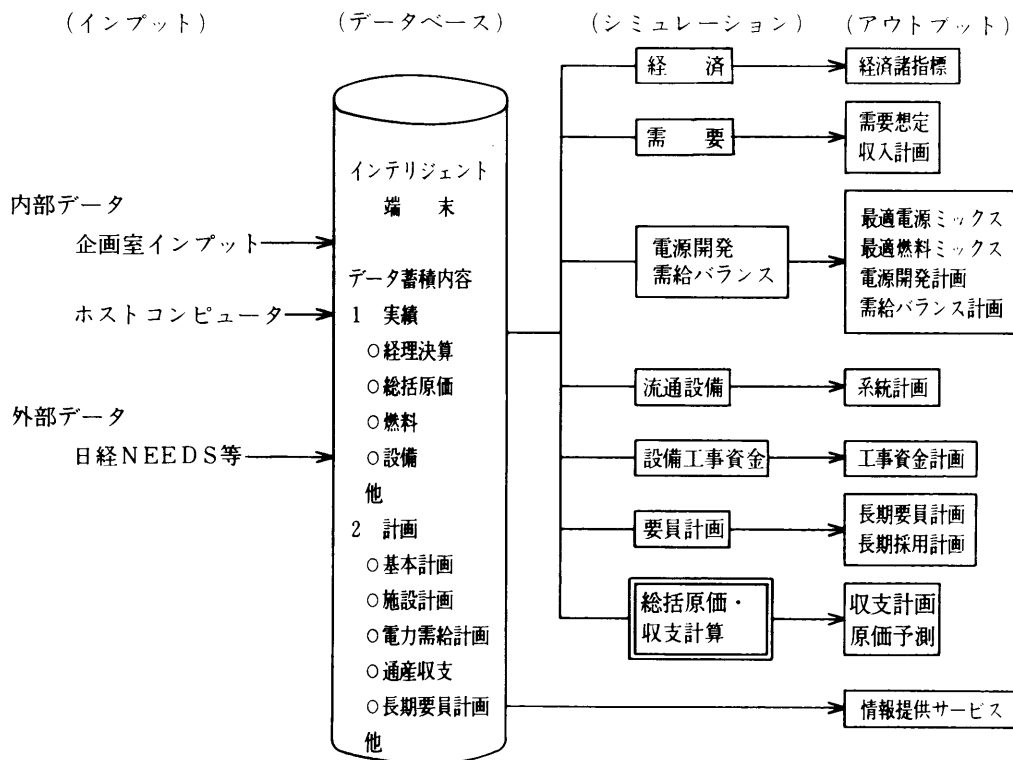
5 開発スケジュール

第1表 開発スケジュール

	59		60	
	上期	下期	上期	下期
ソフト導入・テスト	┌───┐			
利用者教育	┌───┐			
データベース		┌──────────┐		
		第1次	開発	
経営計画シミュレーション(個別モデル)	┌───┐		┌───┐	
	開発		拡充	
役員向け情報提供システム	┌───┐		┌───┐	
	調査・検討		設計・開発	

6 システム『MIRAI』の期待される効果

- データを一元管理して、不整合や散逸を防ぐ。
- データを自在に抽出、加工してすみやかな分析を行う。
- より正確なデータを得て、信頼性が高まる。
- 各種のグラフを得て見やすく表現できる。
- 経営環境の変化によるすみやかな分析を行う。
- 多数のケース計算が可能となる。
- 各パートの諸計画間の連携が密となる。



第3図 経営計画支援システムの概要